

六篠会報

No.17

発行／神戸市灘区六甲台町1 神戸大学農学部内 りく そう かい 六篠会(神戸大学農学部同窓会)
連絡用FAX : 078-881-2752 E-mail : rikusou@ans.kobe-u.ac.jp



大学院自然科学研究科総合研究棟1号館(奥, 改修)と2号館(手前, 新築)

CONTENTS

「会長挨拶」北浦 義久	2	②県六篠会 松本 幹夫	9
「学部長挨拶」真山 滋志	2	③関東支部の近況について 和泉 孔庸	9
「学長挨拶」野上 智行	3	④東海支部 正井 博之	9
神戸大学創立百周年記念行事盛大に举行される 王子 善清	3	⑥延喜会 久下 平	9
同窓生は今 ①山下 市二	4	学友会だより 西川 欣一	10
②平山 徹	4	KUCだより 能宗 康夫	10
③吉倉惇一郎	4	神戸市における「人と自然との共生」の推進 中村 直彦	10
海外学術活動援助報告 ①初めての海外遠征 塩谷 文章	5	六篠会からのお知らせ	
②アメリカ化学会に参加して 古屋敷 隆	5	大学と六篠会を核にネットワークを推進 中村 直彦	11
③国際学会を通して 橋本 堂史	5	kobe-u.comがめざましい 高橋 宣光	11
研究室紹介 ①応用動物学科 生殖生物学・発生工学研究室 片山 弥佳	6	庶務報告	12
②植物資源学科 資源植物生産学教育研究分野 津川 兵衛	6	13年度決算	12
③生物環境制御学科 土壌学 大塚 統雄	7	14年度予算	12
④生物機能化学科 微生物機能化学研究室 青木 健次	7	六篠会活動への連絡先	12
⑤水環境学研究室 畑 武志	8	編集後記	12
総会報告 代議員総会で六篠会の運営を審議 中村 直彦	8	住所変更のあった人	別紙
支部会だより ①KOBEL六篠会 藤井 俊宏	8		

「母校神戸大学の発展を祈る」

六條会会長 北浦 義久



六條会員の皆さん、お元気で各分野に於いて、ご活躍のことと心からお慶び申し上げます。

昨年5月、六條会会長に就任

してから、早や一年半経過しましたが、この間神戸大学創立百周年事業への参画を始め、各支部総会への出席等を通じて多くの同窓生や各界の方々と交流を深める中で、神戸大学の発展について語り合い、支援の輪を拡げて行くことを確認してきました。

また、今年の9月、私の県議会活動の一環として、篠山市の旧福住村にある篠山産業高校東雲校の活動状況調査の為、久しぶりに丹波路を訪れましたが、多紀連山に囲まれた篠山盆地の初秋の姿を目のあたりにしたとき、40数年前が一瞬にして蘇ってきました。

当時と比較して、整備された道路網や区画整理された水田等、目を見張るものがあります。が、全体として、丹波篠山のイメージが変わらず、本当に懐かしく感慨無量でした。

兵庫農大周辺の光景は、大きく変わっていますが、大学前の道路脇に立つ、「我等が青春ここにあり」の碑が往時を偲ばせ、篠山に学んだ我々同窓生にとっては、心の故郷でもあり、懐かしさがこみあげて来ました。

大学が、この篠山の地から神戸六甲台に移転してから早や30年余、今また大学は改革の大きな波にさらされ、変革を迫られています。

こうした激動の中で、神戸大

学は創立百周年を迎え、本年5月11日、神戸ポートピアホテルで盛大に記念式典が挙行されました。

式典では、野上学長を始め来賓の祝辞に続き、新たに制定されたロゴマークの披露の後、記念シンポジウムが開かれ、「知のマネージメント」をテーマにベルリン大学、ホルスト・アルバッハ教授の基調講演と新野幸次郎元学長等によるパネルディスカッション「21世紀の知のマネージメント」が実施され参加者に多くの感動と感銘を与えてくれました。

一方記念事業の一環として「国際交流事業促進基金」が設置され、同窓生を始め各界に募金の呼びかけが行われました。この基金に対し、数多くの六條会員からも賛同を得、ご協力頂いたことに対し、深く感謝申し上げます。

農学部は50年余ですが、大学としては100年の歴史を重んじ、同窓生の皆さんが国内は勿論、海外にも雄飛し、活躍されていることは誠に喜ばしい限りです。

この100年の節目を契機に、次の100年を目指して、母校神戸大学が大きく飛躍する事を、願って止まないところで。

ところで、わが六條会も、他の学部の同窓会の方々と連携して百周年記念事業に参画する

とともに、同窓会本部の活動に力を入れておりますが、さらに地域や職域を対象にした支部活

動も、活発に展開して頂いております。

私も、今年は東海支部を始め、兵庫農大六條会やKOBEB六條会総会にも出席させて頂き、それぞれの地域や職域で、積極的に活動されている同窓生の皆さんに接し、親しく交流を深めるなかで、母校への思いや夢を語り合いました。

全国各地で活躍されている六條会員の皆さんも、近くの同窓生との交流の輪を拡げて頂きたいと願っています。

大学の改革については、すでに色々なたちで報道されており、概要についてはご理解頂いていると思いますが、国立大学から独立行政法人化し大学の姿や運営についても、それぞれの大学で主体的にやっていく形に変わっていくことになるようです。

これからは、大学自体が努力をして、魅力ある大学をつくりあげて行かなければ、取り残される事になると思います。

こうした中で、大学と行政機関あるいは産業界との連携が強く求められていますが、各界で活躍されている同窓生の皆さんも、母校神戸大学に目を向けて頂き、積極的に支援して頂くよう念じて止みません。

21世紀のキーワードは環境、エネルギー、食糧と言われている

「神戸大学と農学部の現状と将来」

農学部長 眞山 滋志



六條会会員の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、私こと本年4月より学部長を務めることになりました。このたび六條会報の発行に際しまして、一言ご挨拶申し上げますとともに神戸大学と農学部の近況をお知らせいたします。就任から早くも半年余がすぎましたが、大学が独立行政法人化に向けて激動期を迎える最中、伝統ある農学部の舵取りに

関わる責務を痛感しております。一歩一歩着実に前進して参る所存ですので、今後とも皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

神戸大学は、本年で創立百周年という記念すべき年を迎えております。去る5月11日には、同窓生はじめ各界から多数のご来賓を迎え、盛大な式典が挙行されました。ことばでは簡単に100年と言えますが、その間多数の教職員と学生が数々の難局を乗り越えて今日の神戸大学

といえます。こうした時代の要請に応えるべく、大学においても新しい取組みについて、真剣に検討が進められています。私たちが六條会員も、母校神戸大学農学部の発展のため、力一杯応援をし、支えて行くことがありませんか。

会員の皆さんの、ご健勝、ご多幸と限りないご発展をお祈り申し上げます。

と農学部を築いて来られた歴史を思い、自ずと深い敬意と感謝の気持ちがあふれてきます。同様な想いから百周年記念事業会では、神戸大学の歩みを確かな歴史に留めるため、神戸大学前身史および写真集を記念出版いたしました。これらの頁を繰っていると、これら先神戸大学に集う教職員や学生の責務を感じざるをえません。

さて、神戸大学における21世紀最初の大きな出来事は、大学の独立法人化と神戸商船大学との合併でしょう。神戸商船大学は、平成15年10月に神戸大学の第11番目の学部として海事科学部に、大学院自然科学研究科で海事科学専攻として統合されることと決定しております。この合併が海に開かれた神戸大学の学風に沿った発展につながるものと大いに期待しています。次に、神戸大学は、平成16年4月に全国の国立大学と共に独立法人化する予定で、現在法人化へ向けて数々の改革案の策定を進めています。法人化が我が国の

将来の高等教育・研究活動にとって如何なる影響を持つかを即断することはできませんが、この改革は大学だけの問題ではなく、日本社会全体の改革と連動して捉えられるものであると思っております。バブル崩壊後の低迷の中、大学は社会の一員として未来の地球社会をリードする学理や道徳を追求し、これらを社会に役立て次代を担う若者に継承する役割を果たさねばなりません。

大学が日本社会発展のポテンシャルを高める原動力として機能するためには、まず各人の能力を最大限、しかも自由に発揮できるシステムとそれを許容する環境と意識をつくる必要があります。それによって、個々の持つ知力を効果的に社会に還元できると思っております。法人化に向けて、このようなシステムを醸成することによって神戸大学と農学部の教育研究内容がトップレベルに維持されるものと信じております。組織や集団意識が多様性と特化の芽を摘むことがないよう、教員や学生すべての構成員が個性ある能力をのびのびと発揮できるようなアカデミックな雰囲気やキャンパス、また自由な発想と研究を助長するシステムにしなければなりません。法人化に伴い大学の合理化に熱中するあまり、統制と管理で教育研究環境が束縛されることだけは絶対避けなければならぬと思っております。

農学部大学法人化準備委員会を中心に、農学部の理念・目標、教育・研究の質の向上、外部資金の確保、社会貢献や国際貢献等について教職員が丸ごと一丸で検討し、法人化後の中期目標・計画の作成を取りまとめたところであります。今後各大学・学部間の競争が顕著になると思われますが、神戸大学農学部の提供する教育研究プログラムが学生にとりて如何に魅力的であるかが今後の発展に大きく影響することになるでしょう。

農学部が研究大学として発展するためには大学院の発展が不可欠です。農学部、工学部および理学部で構成する大学院自然科学研究科は、将来を担う高度職業人や研究者を養成する使命を持つておりますが、平成15年10月には第3次の改組が行われる予定です。この改組の特徴は、従来の博士後期課程の各専攻で見られた理・工・農分野のモザイク状配置を解消し、農学部から大学院博士前・後期課程へと学科単位を保ちつつ継続展開できるようにしたことと、従来の食料生産環境工学科、植物資源科学農林経済分野および付属農場の教育研究組織は社会基盤科学領域・食料フィロド科学専攻内の大講座を構成し、生物機能化学科は理学部生物学科とともに生命機構科学専攻に、応用動物学、植物資源

学におよび生物制御学科は資源生命科学専攻内の大講座を構成することになります。

21世紀は農学の時代といわれますが、最近では食料の安全性や環境保全に関する暗いニュースが目立っております。これらの事件はいずれも倫理観の欠如によるものでありメディアで報道されるたびに、食と環境の教育研究に携わる農学部こそ科学技術の教育と同等に、消費者の健康保護を優先した安心かつ安全な食料と環境を提供する義務

といえますか倫理観についての教育の必要性を痛感しております。我々の生命と生活を支えるアグロバイオサイエンスを担う農学部は、メディアカルバイオサイエンスとともに神戸大学の将来の発展にとって重要な役割を占めるものと思っております。産官学はもとより、市民、学生、保護者、そして卒業生の皆様ならびに六條会からも深い信頼を得られる農学部を目指して、微力ではありますが教職員一同努力して行く所存でございますので、会員各位の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

我が青春此処にあり。六甲山農学部キャンパスは今六甲山を背にして木々の葉も色づき始めたところです。皆様のおすすめのご健勝とご活躍をお祈りいたします。



「21世紀の神戸大学」

神戸大学長 野上 智行



大学をとりまく環境

今、国立大学はわが国の高等教育の歴史の中で経験したことのない未曾有の改革を迫られています。平成16年度から、それぞれの大学は国立大学法人として自立的に運営することが求められています。教官、事務官とともに国家公務員ではなくなることから、新たな雇用関係を構築することも求められています。

神戸大学百年の歴史

こういふ状況下で神戸大学は今年、創立百周年の記念すべき年を迎えました。百年の歴史を刻んできた神戸大学の現況を少しお伝えします。現在、10学部、9研究科(大学院)、1研究所と多くの研究センターを擁する国内有数の総合大学として育っております。学部学生定員は10,615名、博士課程前期(修士課程)定員は、2,271名、博士課程後期(博士養成)定員は1,272名です。留学生は、現在920名です。教官の定員は、1,310名、事務官の定員は1,165名、平成13年度の歳出決算額は約578億円といったところです。平成15年10月には神戸商船大学と統合し、新たに11番目の学部として「海事科学部」が発足する予定です。

ワールド・サテライト・ネットワークの構築

世界はそれぞれコンソーシアムを構成し、わが国に学生を求めてやってきている状況です。神戸大学にアプローチがあったコンソーシアムとしては、オーストラリア、フランス、イギリス、カナダ、アメリカなどです。学生の争奪が国際市場で行われる時代となつています。それに対して、日本の大学は単独で海外市場(?)に進出することはあっても、複数の大学が連合して海外の学生の獲得

に人材を派遣するという体制をとってはいないのが現状です。

学を挙げて、法人化の準備を進めております。その一環として、まず、数年の間に神戸大学の教育研究環境を世界標準のレベルにまで引き上げたいと考えています。農学部の高齢化した建物の改修もできるだけ早期に実現したいと考えています。

ソフトの面では、神戸大学は「異文化の中で学ぶ環境を構築する」ことをコンセプトとし、海外からの優秀な留学生を受け入れるだけでなく、海外の研究者との恒常的な研究の推進、学生の海外提携大学での単位履修などを戦略的に仕掛けております。私どもは、これをワールド・サテライト・ネットワーク構想として位置づけ、海外に神戸大学の連携拠点を構築する準備を進めています。この構想を実現するために「国際コミュニケーションセンター」や「学術情報基盤センター」の創設など、教育研究体制の抜本的な改革をすすめているところです。その中で、神戸大学は何よりも、「人間性」豊かな人材を育てることを任務として自覚し、「創造性」「国際性」「専門性」を高める教育体制の構築をはかっているところです。

生涯の研鑽の場として

神戸大学は、世界の先端的教育研究拠点として内外に認知いただくべく、さまざまな取り組みをしておりますが、その中で次のようなことを念頭においております。

神戸大学創立百周年記念行事 盛大に挙行される

王子 善清(兵C12回)



神戸大学創立百周年記念式典

た。当日は、文部科学省事務次官、国立大学協会会長など多数の来賓をはじめ、同窓生を中心に約1200余名が集合し、それぞれの行事を心ゆくまで楽しんだ。六條会関係では、役員・一般会員あわせて60名近い参加があった。

式典の冒頭、野上学長が「神戸大学の歴史はまさに諸学校の統合と移転と改組で特徴づけられる」とこれまでの百年の歴史を振り返りながら、現在と将来展望を紹介、建学の精神



である「真摯・自由・協同」を今後も引き継ぎ、海外とのワールド・サテライト・ネットワークを構築して「発展と追求の中心的な役割を担う世界の拠点大学として更に発展する努力を続けたい」と決意を述べた。来賓の祝辞のあと、百周年を記念して公募・選定した神戸大学ロゴマークが大スクリーンに映しだされ、「オー」「ワック」という大きな感動と喝采のなか、参加者が感激にひたつた。

式典後、「知のマネージメント」と題して記念シンポジウムが開かれ、アルパッハ・ベルリン大学名誉教授の基調講演に引き続き、4名のパネリストによる活発な意見交換があった。大学百年の歩みがスクリーンで紹介されるなか、学生合唱団の合唱と学生交響楽団の演奏が披露され、参加者を魅了した。

記念祝賀会では、野上学長が感謝と今後も支援を求めめる挨拶、学友会難波紫陽会会長の挨拶、島工学振興会会長の発声で乾杯した。懇談中に学生応援団やチアガールらが軽快なリズムで壇上を飛び跳ね「生涯百年」に花を添えた。

総合同会は神戸大OBの住田NHKアナウンサーが務めた。平成16年の独立行政法人化を目前に、神戸大学が世界の拠点大学として、ロゴマークが示しているように、発展を誓い合った百周年の記念行事であった。



神戸大学を卒業された先輩諸氏が、母校の先端的研究成果を取り入れていただき、自らの事業の新たな展開に活用いただけるように、卒業後、ますます母校として誇ることのできる大学となるように、生涯の研鑽の場として再び神戸大学を選んでいただける価値ある大学となるように。

これまで以上のご指導とご支援を賜りますよう、神戸大学の構成員を代表してお願い申し上げます。

神戸大学のロゴマークについて

神戸大学は創立百周年を迎えるに当たり、新たなロゴマークを制定することとなり、学生、教職員、卒業生等より公募し、審査の結果、工学部4年生の山下賢一郎君の作品が最優秀賞に選ばれました。

デザインは、神戸大学の「K」を二羽の鳥に象形化し、それぞれが大きな軌跡(個性)を描きながら、山や海を渡り大空(世界)へ自由に羽ばたき、時には互いに助け合いながら進み行く様子を表現したものです。



天地>15mm



天地≤15mm

無断使用厳禁 (ロゴマークの使用には大学の許可が必要です)

神戸大学創立百周年記念行事

総合同会 NHKアナウンサー 住田 功一(経営・昭和38年卒)

1. 記念式典(13時~13時45分)
 - (1) 学長式辞 神戸大学長 野上 智行
 - (2) 来賓祝辞 文部科学省事務次官 小野 元之
国立大学協会会長 長尾 真
神戸大学創立百周年 神戸大学創立百周年 新野 幸次郎
記念事業後援会会長 山下 賢一郎 (工学部4年生)
 - (3) 神戸大学ロゴマーク披露 制作者 山下 賢一郎 (工学部4年生)
2. 記念シンポジウム(14時~16時50分)

テーマ：知のマネージメント

基調講演 ホルスト・アルパッハ(ベルリン大学名誉教授)

パネリスト パネルディスカッション

井村 裕夫 総合科学技術会議議員
佐々木 知子 参議院議員
谷井 昭雄 松下電器産業株式会社相談役
新野 幸次郎 神戸都市問題研究所理事長
コーディネーター 根岸 哲 神戸大学大学院法学研究科教授
3. 記念合唱と演奏(17時~17時45分)

神戸大学グリークラブ
4. 記念祝賀会(18時~20時)
 - (1) 学長挨拶 神戸大学長 野上 智行
 - (2) 来賓挨拶 神戸大学学友会副会長 難波 一雄
 - (3) 乾杯発声 神戸大学学友会副会長 島 一雄
 - (4) 会食懇談

同窓生は今

独立行政法人 農業技術研究機構
野菜茶業研究所

機能解析部長 山下市一 (兵C16回)



が求められたため、学生時代の実験・実習が大変役立ちました。数年後にGC-MSの勉強のため、名城大学の講習会に参加したとき、農産製造の土田先生と同室になりました。先生は当時カラムルの研究をしておられたが、後には青果物の研究をされ、学会でよくお会いするようになりました。

48年に「グリーンピー

私が4回生の夏に丹波篠山から六甲に移転しました。写真は移転を目前に、吉川教授(中央)、清原助手(右3人)と生物化学講座の学生が篠山でハイキングをした時の思い出の一枚です。助教は欠員でした。プリマハムの工場長を勤めた井上君はカメラを構えたため写っていません。日本食品分析センターの小西部長(左端)、兵庫県生活科学研究所の河合部長(右2人)がいます。私は、左3人目。

私は、公務員試験を経て、昭和44年に農林省食糧研究所に採用され、当時普及し始めていたガスクロマトグラフを使用した有機分析法の開発を最初の研究テーマにしました。ここでは、上司から研究テーマや技術的な指導を受けることは殆どなく、自助努力

60年に食品総合研究所に復

た訳ですが、その間多くの人と出会い、同じ目標に向かって協働した人、二期一会の人、本当に沢山のことを学ぶことができました。

会社も同じです。目標を一つにした集団の持続力は無限の可能性を發揮する。そして規模の大小を問わず、目標に対する同一力の形成はトップにしかできない最大の役割です。これが私のマネージメントの根本です。

また、大学改革の中で学部

また一方では最近の環境重視の消費者ニーズの高まりに対応した安全、安心な作物生産が求められています。このような状況の中、JAあわじ島は、農業生産分野におけるこれらの諸問題を解決するため、産官学共同の研究の取り組みの必要性から神戸大学農学部、県立農林水産技術総合センターに研究要請を行うこととなりました。それに応えて、神戸大学農学部では、従来から取り決めのある県立

農林水産技術総合センターとの試験研究の連携要領と併せて、産(JAあわじ島)官(県立農林水産技術総合センター)学(神戸大学農学部)連携による共同研究に積極的に取り組みこととなりました。そこで8月2日にJAあわじ島(三原郡三原町)にて、眞山滋志農学部部長、前川敬一JAあわじ島組合長、鈴木利昭県立農林水産技術総合センター所長、関係者21人が出席し、覚え書きの調印式が行われました。JA組織が単体で大学、公設の研究機関と共同研究に取り組むのは全国で初めてで、今後の研究成果が大いに期待されます。

これから、淡路島で神戸大学の若き研究者が農家と直接話し、研究に取り組む姿を想像すると淡路島農業はもう一つの希望が見えてまいります。また同時に大学における新しい研究システムが創造されるのではないのでしょうか。

なおこれらの成果の発表会が農家、農協職員、農機具メーカー、農薬・肥料メーカー、県行政機関、県研究機関職員参集の中で年一回淡路島にて開催される予定であります。



株式会社ダイエー 専務取締役 平山 徹 (兵A13回)

ダイエーに戻ってからのこと……。マスコミ等を通してすでにご存知の通り、現在はその再建の一翼を担っています。

私は学生時代ずっとラグビーをやっていました。決して強いチームではありませんでしたが、それでも夢(目標)を持っていくチームと人は強いし、それを持ってないチームと人は脆いことを学びました。

また、大学改革の中で学部の改組により学科名が大幅に変化し、研究内容も農学部でありながら、現場の農業とは離れた研究に移行しているとの声もあります。しかしながら兵庫県で農学部の存在する

その3分の1で三原川を中心に開けた島内随一の肥沃な三原平野を形づくり、その農業生産はタマネギ、レタス、ハクサイ、キャベツ等を中心多彩な農畜産物を生産しています。特に水稲・レタス・タマネギ、水稲・レタス・レタスの年間三毛作体系はこの地域独特のものであります。しかしながら、これらの長年にわたる作付け体系により、土壌病害等の病害虫による被害や、土壌養分の偏在による生理傷害の発生が懸念されています。

また一方では最近の環境重視の消費者ニーズの高まりに対応した安全、安心な作物生産が求められています。このような状況の中、JAあわじ島は、農業生産分野におけるこれらの諸問題を解決するため、産官学共同の研究の取り組みの必要性から神戸大学農学部、県立農林水産技術総合センターに研究要請を行うこととなりました。それに応えて、神戸大学農学部では、従来から取り決めのある県立

農林水産技術総合センターとの試験研究の連携要領と併せて、産(JAあわじ島)官(県立農林水産技術総合センター)学(神戸大学農学部)連携による共同研究に積極的に取り組みこととなりました。そこで8月2日にJAあわじ島(三原郡三原町)にて、眞山滋志農学部部長、前川敬一JAあわじ島組合長、鈴木利昭県立農林水産技術総合センター所長、関係者21人が出席し、覚え書きの調印式が行われました。JA組織が単体で大学、公設の研究機関と共同研究に取り組むのは全国で初めてで、今後の研究成果が大いに期待されます。

これから、淡路島で神戸大学の若き研究者が農家と直接話し、研究に取り組む姿を想像すると淡路島農業はもう一つの希望が見えてまいります。また同時に大学における新しい研究システムが創造されるのではないのでしょうか。

淡路農業技術センター 農業部長 吉倉惇一郎 (兵C16回)

神戸大学農学部が農業生産現場の問題解決のためJAあわじ島・県試験研究機関と共同研究のための覚え書きに調印

淡路農業技術センター 農業部長 吉倉惇一郎 (兵C16回)

今年から始まった「野菜の硝酸塩低減栽培研究」では、王子教授に参加いただいています。研究所と大学の連携がさらに深まるよう期待しています。

その一つ一つは決して同じではありませんが、原因はともかく「人が病んでいる」という症状はどれも共通しています。逆に言えば、そこに「人を活かす」必要は必ずしもありません。会社も「人を活かす」という確信方程式を持つことができます。

確かに現在のダイエーは非常に厳しく、時間がないという状況は、どこか、感じていた

何か、どこか、感じていた

何か、どこか、感じていた

何か、どこか、感じていた

何か、どこか、感じていた

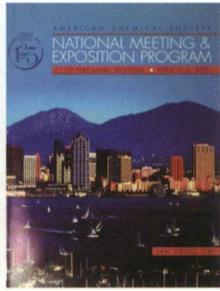


淡路農業技術センター 農業部長 吉倉惇一郎 (兵C16回)

淡路農業技術センター 農業部長 吉倉惇一郎 (兵C16回)

海外学術活動援助報告

六條会では学術振興事業として会員の海外渡航援助を行っています（庶務報告参照）。今回は、昨年度の援助金を賜り、平成13年4月1日～5日に開催された第221回アメリカ化学会で研究成果を公表した大学院生3名（現修士生）の記事を紹介いたします。



初めての海外遠征

国立がんセンター研究所 塩谷 文章（神BC28回）

ことの始まりは唐突だった。ある日、私の所属していた食品栄養・化学研究室のミーティングで、その年の学会発表の予定を組んでいた時のことである。いつもならば国内の学会や、あつても日本で開催される国際会議への演題提出を予定するのであるが、その年はアメリカで行われる学会が組み込まれていた。それが今回私が参加した「American Chemical Society (ACS) 221st National Meeting」である。その時、芦田先生に行くかどうかの決断を迫られた時に、正直言つて英語での口頭発表という事で迷いがあつた。また、決断を鈍らせたもうひとつの原因は、お金のことである。やはり海外での発表ともなるとそこそこの費用がかかる。だが、この世界で生きていくうえで、このまま逃げていてはいつまでも世界では戦えないと思ひ自腹覚悟で演題提出を決定した。準備にはいつも以上に時間をかけた。まず、発表に用い

つた。安いからにはそれなりの理由があつて、飛行機は乗り継ぎの嵐、ホテルはゲイ街の中に、といった具合であつたが何とかたどり着いた。会場は非常に大きくたくさんの方々のセッションに分かれており活発な議論が行われていた。ポスター発表の会場もあり私のような若い研究者が発表していた。全体の印象としては日本の学会よりもやわらかく、入り込みやすい感じであつた。しかし、何せ片言の英語しかしゃべれない私は、質問したいことがあつてもしり込みしてしまい非常に悔しい思いをした。発表は練習してきたとおり、無難にこなすことができた。わが研究室の面々も何とか無事に発表を終え、質疑応答に入つたが、残念なことに発表のセッションが日本食品因子学会とACSとのジョイントシンポジウムだったのであまり知られていなかったせいなのか、聴衆はそれほど多くなく、議論は活発とはいえないもので非常に悔しかった。私の研究が世間の興味を引くものではなかったのか、宣伝が足りなかったのか、いずれにしても今度発表する時は、多くの人に聞いてもらえるものにしてしようと思つた。しかし、ミーティングの後の会食時に大きな収穫があつた。おいしい料理とお酒を囲みながら学会に参加した日米の多くの先生方と研究について話す機会が持てたことがうれしかった。当時博士課程の2年生だった私は、進路の面でもいろいろ話を伺うことができた。このように多くの未知なる体験をし、非常に勉強になった国際学会であつた。

「アメリカ化学学会に参加して」

江崎グリコ菓子研究所 古屋敷 隆（神BC32回）

私は昨年の4月にサンディエゴで開催されたJoint ACS/ICoF Symposium on Food Factory for Health Promotionに参加させて頂いた。我々の研究室からは、金沢先生、芦田先生とともに4人の学生がこの学会に参加したのだが、学生は4人とも英語での口頭発表は初めてで出発前の練習にはかなりの時間を費やした。学会の期間は4月1日から5日までで、3月31日に私はアメリカ入りした。アメリカに対する第一印象は、ありきたりではあるがスケールが大きいということだった。学会の期間中、塩谷氏と2人でサンディエゴの安ホテル（1泊2人で50\$）に滞在したのだが、さすがに安いだけのことであってセミダブルのベッドと小さな机があるだけで、あとは何か荷物が置けるスペースがあつただけだった。食事はベッドの上でハンバーガーとビール、またビールを飲みながらメジャーリーグを見て、寝る前に発表の練習をしてみようと思つた。一緒に寝るベッドで寝る。そんな5日間がとても楽しかつた。

とここで、肝心の学会だが、ACSという学会は皆さんもご存じのとおりアメリカでも最大規模の学会で発表の内容が多岐にわたっており、まず

はじめに述べたとおり、なかば勢いで参加を決めた国際学会であつたが、参加して知つたこと、聞いたこと、考えさせられたことは、いまでも私の研究生生活に生かされて謝しております。

おり貴重な体験となつた。最後になりましたが自腹での出席を覚悟していたところに、六條会のご厚意により、渡航費を援助していただき深く感謝しております。

つも頂けなかつたので、私の英語は通じていなかったのかもしれない。それとも、私が英語の質問には答えられそうに無いと思われたのだろうか。いずれにしても情けないことだが、この度の学会で自分が発表したということ以上に世界的レベルの学会に参加したことに意義を感じているので満足している。今後の私の研究生生活における大きな糧となることであらう。



Dr.Dong (中央)と筆者 (左)

「国際学会を通して」

ミネソタ大学ホームレス研究所 橋本 堂史（博前26回）

六條会からの助成金を頂き、アメリカ、サンディエゴで開催されたアメリカ化学学会（平成13年4月1日～5日）に参加しました。初めての海外での発表ということだけでなく、初めての英語による口頭発表ということ、この学会は大きな自信につながりました。学会では、緊張のあまりポイントマイクと間違え、自分の顔を赤い光で指しながら発表を始めてしまったことを思い出します。しかし、このような失敗を大きな場面で一度していると、肝が据わるというか、少々の事には動じなくなつたようです。そのあと、秋に参加した国際変異原学会（静岡）では、芦田先生（農学部助教授）から紹介されたミネソタ大学ホームレス研究所長のDr. Dongに、展示していたポスターを説明してほしいと言われたときにもさほど緊張することもなく説明でき、その直後にDr. Dongからポスターのオフアを頂くことができました。ホームレス研究所での職に就けたのも、少なからずサンディエゴの経験があつたからではないかと思つています。サンディエゴでの学会報告については、塩谷、古屋敷両氏も執筆される

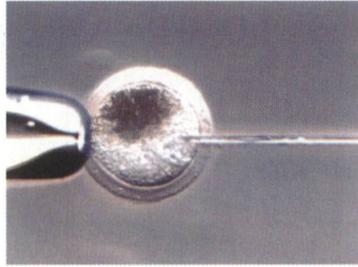
「Physiological Chemistry」に分けられ、はばひろく健康と病気をテーマとした研究を行っています。「Cellular & ...」は私を含め中国人4人、韓国人3人、日本人2人、ロシア人1人の計10人のポストドクが研究に従事しています。このほかにもドイツ人やフィンランド人などがおり、国際色豊かな研究所です。また、このユニークな点は、研究所の地域貢献の一環として、地下にミネソタ州南部をサービス地域とするインターネットプロバイダーを所有していることです。全く違った分野での地域貢献であるだけに、驚かされました。また、ここでの仕事を通じて、神戸大学で勉強していたときとは異なっていたのかの事を学びました。たとえば研究設備への考え方や投資の仕方の違いです。「隣のラボにあれば、自分のラボに新しいものを用意する必要はない」という考え方もあります。蒸留水がほしければ隣のラボにもらいにいき、遠心器が使いければ別の階まで走ります。正直なところ着任当初は戸惑いましたが、今は「何とかなるもんなんだ」と感じてきています。

国際学会を通して海外の研究者と出会い、海外の研究機関を通して多くの発想や考え方を学ぶ。発展途上の私にとっては、すばらしい経験を積みかさねることができているのだと感じています。在校生も、さらに見聞を広げ充実した学生生活を送れるようがんばってもらえればと思います。最後に、サンディエゴでの学会参加のために六篠会から学術助成金を頂けたことを心から感謝します。

研究室紹介

農学部は平成5年の学部改組以降、大講座制になり研究室の名称変更が頻繁になされました。学科・講座等の変遷は昨年発行の六篠会名簿にも掲載しましたが、卒業生におかれましては、現在の農学部の実情が把握し難くなっているのではないかと考えています。そこで、少しでも現在の農学部を知っていただくために「研究室紹介」というタイトルで現5学科からそれぞれ一つずつの教育研究分野において現況報告を含めた紹介を執筆していただきました。来年以降もシリーズとして農学部全ての研究室を順次紹介していければと考えています。

応用動物学科 生殖生物学・発生工学研究室 片山 弥佳(神25回)



マニピュレータ操作によるフタ卵母細胞からの除核

毎日電車を降りてどんだん坂を登り、六甲登山口というバス停を通り越してもまだ、どんだん登っていきます。でも、登山をしているわけではありませぬ。ただ、研究室に向かっているだけです。夏なら、お風呂にでも入ったのかと間違われるほど、汗びっしょりになって研究室に入ります。冬なら体がポカポカして気持ちいい、なんて思えたらいいのですが、なかなかそこまで健康にはなれません。そんなところに研究室はあります。

が農学部の実験棟から大学院の自然科学研究棟に移転しました。新築で明るくなった実験室ですが、研究内容は刷新というわけにはいかず、これまでと同様に、家畜の生殖細胞に関する3つのテーマを中心に研究を進めています。簡単に紹介しますと、「卵子は卵巣の中でどのように形成され、受精できるような変化を受けるか?」「精巣で形成された精子はどのような変化を受けるか?」「受精した卵子はどのような機構によって発生を開始するのか?」といったことを、生化学的、細胞学的、発生の学的手法を用いて調べています。研究材料は、食肉センターからご好意により頂いたブタやウシの卵巣、雄ブタより採取した精液などを用いています。これらの研究が、食糧生産性の向上だけでなく、最近では、新聞などを

時々にぎわす再生医療や不妊治療、創薬など医療への貢献も期待されています。所属する学生は16名で、うちベトナム、メキシコ、バングラーディッシュからの留学生がそれぞれ1名ずつ在籍しています。彼らとの交流を通して、いわゆる「異文化コミュニケーション」なる飲み会がよく催されます。研究室での公用語は英語と言いたいところですが、留学生の皆さんがよく勉強してくれまので、ほとんどの会話は関西弁でなされています。彼らが帰国すると、関西弁が日本語だと思われるのかなあと少し心配ですが、楽しくいいかなとも思います。と言いつつも、これからのいろいろな国から留学生が来られるでしょうし、週に一度のゼミ発表会ぐらいは英語で行えるように、少しオーバーですが、国際的な研究室になったらいいなと思います。

女性の社会進出が目立っていますが、研究室でも学生16名中、女性が9名を占め、以前では考えられないほど女性が増えました。人数だけでなく元気で活発な女性が多く、いくぶん男性陣の影が薄くなっているようです。わいわいと賑やかな実験室が想像できるかと思えます。

今年3月に加藤征史郎教授が退官され、現在は、三宅正史教授、宮野隆教授、原山洋助教授の指導の下、研究が進められております。この研究室の最もいいところは、何事も学生が主役で行われることです。研究では遠回りをすることもありますが、これからも学生中心にがんばっていきま

資源植物生産学教育研究分野の発祥は兵庫農科大学農学科の食用作物学講座にありま

す。昭和42(1967)年の国立移管により神戸農学部作物学講座となり、平成5(1993)年の学部改組まで長年にわたり、作物学研究室と名乗っていたので、今でも非公式な場では呼び馴れたこの名前が通じています。本研究

植物資源学科 資源植物生産学教育研究分野

教授 津川 兵衛

津川は学部学生向きには産業資源食物学ならびに緑化・

草花の分布と生育状況も調査対象です。平成9年から4年を要した農道・用排水路・井堰の改修工事の調査も完了しました。棚田の作付け様式、棚田につけられた通称名、水利系統を明らかにすることも棚田研究の一環です。6年目を迎える棚田オーナー制度、5年間続いた本学部生を中心とする棚田ボランティア、今(2002)年に竣工したク

ラインガルテン岩座神、さらに岩座神ソバ、ソバ殻枕、葉ワサビの醤油漬、梅干、一村一品運動の今後の動向にも興味を引かれます。また、五

霊神社、神光寺、七不思議等を知るにつけ山里の謎は深まります。これからの事物・事象について調査研究し、棚田の多面的機能の開発・強化を計り、それらを活用する方向で里づくりを目指す所存です。



大分県、久住で行われたサマースクールに参加。40年程前の卒業生で、現在、大分県畜産試験場にお勤めの吉田穂治さんとお会いし、試験場を見学させて頂きました。その節は大変お世話になりました。

化」を開始しました。この事業には、篠山市に本拠を置くNGOタンバグリーンフォース2000が平成12(2000)年から参加しており、一応の成功を見ています。クズの実験をやめてからは、六甲山南麓部のフリーフレーム緑化工の研究へと移りましたが、このとき得た知識と体験は現在進行中のマンネングサ類による屋上・壁面緑化研究へのヒントを与えてくれたことは申すまでもありません。

一昨(2000)年からイフガオ棚田周辺の土壌流出を防止するために植林を始めています。現在のところさやかな事業ですが、来(2003)年からは本格化させる予定です。棚田周辺森林の環境破壊を招く焼畑農耕を廃し、かわりに路地作付システムを導入します。ギンネムの生垣の間にはクズの緑肥を投入し、カンショ、マメ類、雑穀を栽培する計画です。

てきました。また、この高い光合成能力は炭酸固定酵素のRuBisCo含量の増加より、その活性化酵素であるRuBisCo activase含量の増加とより密接な関係にあることを明らかにしました。現在、高光合成能の機構を明らかにするため、ガス交換法による炭酸同化効率の解析ならびにこの活性化酵素についての型質転換体の作出や他の野生イネにおける変異の有無に関する調査を進めているところです。光合成研究では早朝の測定が要求されますが、労をいとわず研究に取り組む学生諸君の姿勢を頼もしく思っております。

に、私自身は主に貯蔵脂質の合成や脂肪酸修飾に関する遺伝子をクローニングしてテストする部分を担当してまいりました。現在もポストドク時代の研究室と協力しつつ、仕事の一部を継続しています。

は藤嶽暢英、平成10年に前助教鈴木木創三氏の農工大への転出に伴い、助手から昇格しました。助手は公募によって本研究室を卒業した鈴木武志が採用されました。現在、彼はカナダに長期在外研究員として1年間滞在しこの10月には帰国します。

はありません。農耕地の劣化現象の一つに土壌有機物含量の低下や窒素等の過剰養分の集積があります。一方、大気中のCO2濃度の増大、バイオマス廃棄物の増大、畜産廃棄物硝酸態窒素による地下水汚染等の環境問題解決が求められています。

では、研究を進めるに当たっては、他大学、農水省・旧農水省研究機関、民間企業等と共同研究や受託研究を行っています。また、米国ペンシルバニア州立大学、フィリピン大学、タイ国コンケン大学等と国際研究交流を行っています。この3年間にネパール、中国からの学生が卒業し、フィリピン、バングラディッシュからの留学生が在学しています。大塚は2001年から韓国農村振興省の名譽研究員

に推薦され、韓国土壌肥料学会の国際シンポジウムで、「Soil Management in Japan for Global Sustainable Agriculture」を講演しました。

が毎年、数週間から数ヶ月滞在して研究、研修を行っています。このような次第で、研究室の環境や雰囲気も一昔前とは様変わりしました。何よりも研究室員が増加し、時期によっては30名を越えるため、研究室が常に動的な状況、あるいは励起状態にあるという感じにさせてくれます。これは、学生を始めとする研究室員諸君の持つ若いエネルギーに基づくもので、我々研究室のスタッフは、このような活性化され、高い準位にあるエネルギーを裏切らないと常々、肝に銘じています。

す。しかし、うまく行く場合はもちろんのこと、仮にうまく行かない場合であっても、「説明」や「プロセス」において得るものは多々あります。例えば、相手を十分納得させるために、従来の方針を検証する機会を得ることになり、相手に対する説得力のノウハウを獲得することにもなります。また、これらの過程において、新しい研究方針や具体的な研究テーマを発見する幸運に恵まれることもあり

島中は本学大学院博士課程を修了後、ポストドクとして奈良先端技術大学院大学に在籍しておりました。その後、平成10(1998)年に渡米し、平成13(2001)年までケンタッキー大学植物脂質代謝研究室でポストドクとして在籍してました。そこではアメリカで油料作物として広く栽培されているダイズの品種改良を行うことを目的として研究していました。特に、私たちのグループがたずさわっていたのはダイズ油の産業利用です。現在、すでにダイズ油は加工されて塗料や接着剤の原料になっているのですが、その効率をもっと高めて石油の代替資源にする計画の下

に、私自身は主に貯蔵脂質の合成や脂肪酸修飾に関する遺伝子をクローニングしてテストする部分を担当してまいりました。現在もポストドク時代の研究室と協力しつつ、仕事の一部を継続しています。

博士課程の柳 由貴子はこの9月で学位を取得し、ポストドクとして東京工業大学へ旅立ちます。M2と4回生の就職・進学状況は、M2…就職希望者2人(コープ本部(東京内定)と中部飼料(知多市内定))と博士課程進学希望者1人、4回生…就職希望者2人(JA六甲内定、公務員)、修士課程進学希望者3人となっています。

生物環境制御学科 土壌学

教授 大塚 紘雄

土壌学研究室のスタッフからご紹介いたします。教授は大塚 紘雄、平成8年4月から現職

に就いておられます。前職は農水省農業環境研究所(つくば市)から参りました。助教

は藤嶽暢英、平成10年に前助教鈴木木創三氏の農工大への転出に伴い、助手から昇格しました。助手は公募によって本研究室を卒業した鈴木武志が採用されました。現在、彼はカナダに長期在外研究員として1年間滞在しこの10月には帰国します。

博士課程の柳 由貴子はこの9月で学位を取得し、ポストドクとして東京工業大学へ旅立ちます。M2と4回生の就職・進学状況は、M2…就職希望者2人(コープ本部(東京内定)と中部飼料(知多市内定))と博士課程進学希望者1人、4回生…就職希望者2人(JA六甲内定、公務員)、修士課程進学希望者3人となっています。

博士課程の柳 由貴子はこの9月で学位を取得し、ポストドクとして東京工業大学へ旅立ちます。M2と4回生の就職・進学状況は、M2…就職希望者2人(コープ本部(東京内定)と中部飼料(知多市内定))と博士課程進学希望者1人、4回生…就職希望者2人(JA六甲内定、公務員)、修士課程進学希望者3人となっています。

博士課程の柳 由貴子はこの9月で学位を取得し、ポストドクとして東京工業大学へ旅立ちます。M2と4回生の就職・進学状況は、M2…就職希望者2人(コープ本部(東京内定)と中部飼料(知多市内定))と博士課程進学希望者1人、4回生…就職希望者2人(JA六甲内定、公務員)、修士課程進学希望者3人となっています。

博士課程の柳 由貴子はこの9月で学位を取得し、ポストドクとして東京工業大学へ旅立ちます。M2と4回生の就職・進学状況は、M2…就職希望者2人(コープ本部(東京内定)と中部飼料(知多市内定))と博士課程進学希望者1人、4回生…就職希望者2人(JA六甲内定、公務員)、修士課程進学希望者3人となっています。



「写真：金賞ポスターと土壌モノリス、藤嶽(左)、大塚(中)、鈴木(右) 土壌学実験室にて」

生物機能化学科 微生物機能化学研究室

教授 青木 健次

本研究室は兵庫農科大学醸造学研究室として発足して以来、同発酵生産学研究室、神戸大学発酵生産学研究室を経て、現在の微生物機能化学研究室に至っています。この間、麦林楠太郎先生、西羅寛先生、新家龍先生のご指導を受け、現在に至るまで319名の学部卒業生、78名の大学院修士修了生、13名の同博士修了生を送り出しています。

近年の傾向として、修士課程に入学する学生数が増加し、本研究室においても、修士修了生の方が学部卒業生より多い年度も見られるようになりました。また、国内の他大学を卒業した後、修士として本研究室に入る学生数も非常に増加するとともに、外国からの留学生も増加しています。さらに、日本学術振興会の拠点大学招聘研究員制度によるタイ・チュラロンコン大学やチェンマイ大学からの研究員及びジャイカプログラムによる研修員の合計45名

が毎年、数週間から数ヶ月滞在して研究、研修を行っています。このような次第で、研究室の環境や雰囲気も一昔前とは様変わりしました。何よりも研究室員が増加し、時期によっては30名を越えるため、研究室が常に動的な状況、あるいは励起状態にあるという感じにさせてくれます。これは、学生を始めとする研究室員諸君の持つ若いエネルギーに基づくもので、我々研究室のスタッフは、このような活性化され、高い準位にあるエネルギーを裏切らないと常々、肝に銘じています。

また、研究室員がそれぞれ異なる国籍、宗教、出身校、バックグラウンドを持ちあわせているため、それらの集合体としての研究室は、積極的な見方をすれば多様性を持つことになり、別の見方からは統一性を欠くことになり、これは日本語であっても過去の経緯や背景を加えながら、相手が納得するまで説明することが必須になっています。また、研究の進め方においても、新たに参加した研究室員の方のやり方を尊重しながら、しかし、最終的には本研究室の方法論に従ってもらうためのプロセスも必要になります。

食料生産環境工学科 水環境学研究室

教授 畑 武志

食料生産環境工学科は2つの大講座からなる。農村地域など国土と地球上の生産環境と生活環境にかかわる地域環境科学講座には4教育研究分野があるが、その一つとして活動している。

現在、水環境学研究室の中心課題は、水資源の保全、水利用、洪水調節の基礎をなす水文学的視点から河川流域の水の動態について研究を進めている。それをベースに農村地域を始めとする社会におけるさまざまな課題の解決にも関わっており、河川及び水路、ため池等の水利施設の計画・管理問題、水域の空間的利用と環境改善、個別河川の水問題等を扱っている。

利水及び治水上の問題は、河川流量の変動特性を把握することが重要な課題になっている。数理的モデルを用いた流量予測法は計画、管理の両面で基礎になるが、研究室では田中丸治助助教授が中心になって、予測法の確立を目指している。即ち、このような予測及び管理モデルにおいてはパラメータの決定が重要であり、モデルの最適化のため、遺伝的アルゴリズム等有力な手法の開発・改良を米國ワシントン大学の研究者との共同研究も含め、進めており、モデル最適化の水質は世界的に見てもかなり高いレベルである。同氏は流出予測に関する研究で、平成9年度農業土木学会賞の研究奨励賞を受賞しており、その研究成果の一部は共同研究者である角

屋陸京都大学名誉教授の学士院賞受賞対象研究の一部にもなっている。また、海外研究としてインドネシアのプランタス川の水資源管理に関する研究等も行っている。

水環境の中心課題の一つである水質に関しては、多田明夫助手が中心になって研究を進めている。自然流域からの物質の流出量をとらえることは、水環境を保全する上でも基礎的の要件であり、現地での観測により、その動態を明らかにしてきた。開発農地の物質収支や、ため池の水質保全上の効果等について、精力的な現地観測及び室内実験を続けているが、現地水質研究の最大の課題である連続観測と観測精度向上の課題を解決するため、現場での連続観測に適したフローインジェクション測定法等の開発・改良に取り組んでいる。平成14年度農業土木学会大会では、初めての試みとして企画セッションが持たれたが、同氏は今後の水質研究の課題を整理すべく一つのセッションをコーディネートし、関連研究者・技術者から多くの関心を集めた。高精度現地連続観測装置が完成した場合、多くの研究課題の解決に役立て得るものと期待されている。

水・水資源分野では、先述のように流域での水の動態を表現できるモデルが重要な役割を果たすが、筆者を中心にその開発に取り組んできた。従来相互葛藤のあった二つの代表的モデルの流れを

統合し、長期と短期の流出現象を一つのモデルで扱える分布貯留型モデルの開発が行われた。英国エイボン川等の洪水解析について、プリストル大学の研究者との共同研究を継続している。また、ナイール川の水資源の有効利用問題を扱い、乾燥地域での食料生産のための灌漑方法に関して、農民はじめ利害関係者の参加による灌漑用水管理について、ゲジラ大学水管理灌漑研究所、スーダン農業研究所、灌漑水資源省との研究交流を通して推進している。平成14年にカナダで開かれた第18回国際灌漑排水会議総会で行った総括報告では、これらの研究結果についても触れ、モントリオール宣言の作成では参加型灌漑計画・管理の重要性等、今後取り組むべき課題をまとめた。また、発展途上国等の農地洪水被害を防ぐため、国際ワーキンググループのメンバーとなり、毎年のように各国から集まって災害予防マニュアルづくりなどを行ってきた。ため池、水路の水辺環境の整備等、農村の環境改善については、多くの水環境整備計画案の検討に参加しているが、現在、河川整備計画で淀川水系や円山川の河川整備計画で参加型の計画づくりを研究者や関係者多数とともに進めている。



研究室メンバー写真(平成13年10月神大卒業アルバム委員会撮影)



水環境学の教育研究活動を背景にいくつかの学会活動や社会活動があるが、農業土木学会関係では平成14年春までの2年間、会員2,300名の京都支部の事務局や水文・

水環境研究会の事務局を本研究室におき、教官3名で担当してきた。この間種々、専攻生の協力を得てシンポジウム等を開催したが、学生諸氏にとつて学会活動がより身近なものになり、研究上の刺激を得る機会にもなったのではないかと思われる。卒業生諸先輩との同窓会活動(地域環境科学講座関係の卒業生と現旧教官の同窓会として「水土会」の活動を行っており、会員数も500名近くなっている)を通して絆と支えを得ながら、在学生が大きく育っていくことが強く期待される。

総 会 報 告

代議員総会で六條会の運営を審議

代表理事 中村 直彦(神Z1回)

六條会の円滑な運営と開かれた同窓会活動をめざして、代議員総会を5月25日(土)に、兵庫県民会館で開催した。

北浦義久会長(兵A6回)の挨拶のあと、酒井修氏(兵A9回)を議長に選出し、議事の審議に入った。

まず初めに、平成13年度の事業報告、決算報告及び監査報告。また、平成14年度の事業計画及び予算について審議した。(詳細は、後述のとおり)

引続き、従前から設置している「学術振興基金」を「神戸大学農学部六條会基金」と名称の変更を行い、この管理、処分内容及び方法を明確化する同規定を設置した。この基金は、もともと同窓会館の建設を目的に積立てを始めたもので、基金の果実は、学術振興の活動援助に利用してきた。しかし、近年、六條会の一般事業活動や学術振興事業の充実に伴う資金不足と金利の低下、また、今日において六條会独自の同窓会館を所有することは必要がないとの考えから、当面は実情に合わせた形で運

用することとしている。

この規定の内容は、六條会の健全な運営と学術振興の促進を目的に基金を積立て、その基金は確実な方法により管理を行い、学術振興事業、IT化等の活動事業、同窓会館等の財産取得、一般会計事業の負担、学友会事業の負担に限り基金を処分することが出来ることとしたものである。即ち、基金の使途は何にでもよいということではなく、一定の歯止めを掛けておくというものは、予算上のことであるため総会又は代議員総会において審議を行い、承認を得ることが必要である。

最後に、会報担当役員の吉倉博一郎氏(兵C16回)が、兵庫県庁の人事異動により業務の継続が難しくなったため、相野公孝氏(神P12回)を後任に選出した。

以上、全ての議案は、承認された。

支部会 だより

KOBE六條会

藤井俊宏(神C14回)

KOBE六條会は、兵庫農科大学、兵庫県立農業短期大学及び神戸大学農学部を卒業し、神戸市に勤務する者を会員として、昭和59年に結成されました。現在は、会員120名(現職会員83名、OB会員32名、名誉会員5名)を数えています。

会員の勤務先は非常に幅広く、小学校や中学校(教員)、環境局(産業廃棄物や環境保全に関わる仕事)、保健所や区役所保健部(食品・環境衛生に関わる仕事)、産業界(農・水産・畜産業の農政局(農・水産・畜産)の農政振興事務に関わる仕事)、建設局(土木、下水道、道路などの土木関係)、農業公園や六甲山牧場など多岐にわたっており、いろいろな現

場、さまざまな仕事にたずさわっています。

会の活動は、年1回の総会・懇親会の開催および名簿の発行であり、総会・懇親会では、農学部長、六條会会長、名誉会員である歴代学部長をはじめ定年退官された先生方のご出席をいただき、大学の近況を伺ったり、当時の思い出話に花を咲かせたりと親睦を深める良い機会となっております。

昨今の厳しい行財政運営が求められるなか、安全で安心なまち「こうべ」の実現に向けて、それぞれの職場・立場で会員一丸となり取り組んでいます。



役職名	氏名	卒年・回生	所属(勤務先)
会長	西尾 司	43年・兵Z16回	環境局環境審査室
副会長	谷口 正夫	43年・兵Z16回	産業振興局西農政事務所
副会長	中村 直彦	45年・神Z1回	産業振興局農政計画課
副会長	岡 淳治	45年・神T1回	神戸市都市整備公社
幹事	木股 昌行	45年・神Z1回	垂水区保健部衛生課
〃	菅原 通直	48年・神C4回	灘区保健部衛生課
〃	橋本 宏之	51年・神Z7回	東灘区保健部衛生課
〃	渋谷 一郎	52年・神C8回	生活文化観光消費生活情報センター
〃	高谷 信之	52年・神A8回	産業振興局西農政事務所
〃	森川 功一	55年・神C11回	環境局事業系ごみ対策課
〃	藤井 俊宏	58年・神C14回	保健福祉局健康部生活衛生課
〃	鈴木 壽也	59年・神P15回	産業振興局西農政事務所
〃	松宮 道生	60年・神A16回	建設局公園防砂部計画課
〃	岡野 光世	3年・神A22回	産業振興局西農政事務所
〃	為 国 司	5年・神C24回	環境局地球環境課
〃	開出 朝葉	9年・神A28回	産業振興局農政計画課
監事	斎藤 充己	42年・兵A15回	淡河中学校
〃	千代 栄司	46年・神A2回	建設局公園防砂部施設課
〃	中尾 博行	46年・神A2回	産業振興局農水産課

県六條会

松本幹夫 (神A3回)



されました。

この共同研究にも、同窓生が大いに活躍しています。

本会の活動は年1回の総会兼懇親会と名簿発行が主ですが、会員同士は、仕事の中で同窓生としての良き連携と緊張感の下、困難な仕事にも前向きに取り組んでいます。

今年、10月23日に総会を開催しました。眞山農学部長、北浦同窓会長をお迎えし、農学部近況や大学時代の昔話など、賑やかな会となりました。

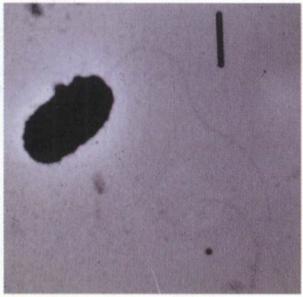
平成14年度役員

- 会長 置塩 康之(兵14回)
- 副会長 板井 丈夫(兵16回)
- 副会長 塩飽 是雄(神1回)
- 副会長 吉川 年彦(兵15回)

事務局長 兵庫県農林水産部農業経営課 担当松本幹夫(神3回)

電話 078-3362-9196

「県六條会」は兵庫県に勤務する(又は、勤務した)六條会会員により、昭和56年に結成され、現在、会員209名(内現職会員161名、OB会員48名)を数え、その勤務先は、農林水産部のほか、企画管理部、県民生活部、産業労働部、県土整備部等と多岐にわたっています。



関東支部の近況について

支部長 和泉孔庸 (兵C8回)

六條会関東支部が発足して今年で5年目を迎えております。支部としての基盤がある程度確立され、関東の地において会員相互の交流の場を定期的に設ける事が出来る様になりました。

また、神戸大学の各学部のOBで組織された「神戸大学東京連絡会」の設立、運営にも参画し、「神戸大学木曜会」のメンバーとして講演会や懇親会を定期的に主催しております。

この様に関東地区に於ける「六條会」の使命、役割が遂行出来ます事は、偏に会員各位並びに本部のご支援、ご協力の賜物と感謝しております。

去る7月13日に本年度の支部総会を神戸大学東京KUC(凌霄クラブ)で開催して支部役員を次のとおり選出しました。

- 支部長 和泉 孔庸(兵8回)
- 副支部長 岸谷 靖雄(兵10回)
- 山本 隆司(兵10回)
- 長岡 俊明(兵10回)
- 本田 勉(兵12回)
- 多田 泊二(兵13回)
- 八尾 明良(神1回)
- 上山 維介(神3回)

- 表 谷口 廣昭(神4回)
- 表 鮫島 常樹(神6回)
- 表 東野 純明(神13回)
- 表 (兼) 神戸大学東京連絡会六條会代表 早瀬 基(神19回)

幹事

- 水田 勲(兵12回)
- 宮崎 敏弘(神3回)
- 田中 易(神12回)
- 川口 真二(神18回)
- 河波 朗(神14回)
- 荒井 良昌(神15回)
- 村橋 一彦(神16回)
- 細見 重勝(神20回)

監事

- 総会後の懇親会には、神戸大学農学部の内藤教授(兵13回)並びに奥谷、吉良両名誉教授にも出席を賜りました。
- 内藤教授からは、神戸大学農学部の現況及び今後の展望等について、奥谷、吉良両名誉教授からは数々の想い出話や現況について、いずれも含蓄のある「名講義」を聞かせていただきました。
- また、関東支部は来る11月28日(木)に「神戸大学木曜会」で講演会と懇親会を神戸大学東京KUC(凌霄クラブ)で主催する事になっております。講師は湯浅浩史東京農

業大学教授(兵11)で「地球環境の変動と植物(仮題)」のタイトルで講演していただきます。当日は他学部OBも参加されますので多数の会員各位の参加をお願いします。

東海支部

会長 正井 博之 (兵C2回)

昨年9月22日に設立された六條会東海支部の総会が1年振りに9月21日に半田市の雁宿ホールで和やかに行われた。

定刻の1時30分、ホール2階の一室で総会が始まった。前川氏(36年卒)の司会により正井(29年卒)の歓迎挨拶があり、続いて、兵庫県会議員の多忙な公務の中を御出席いただいた、六條会北浦会長からのご挨拶を頂戴し、併せて六條会、農学部の最新情報を詳しく伺い、どんな変化、発展していく母校の現状をたのしく拝聴した。次いで宮崎県日向市から駆けつけて下さった西浦氏(37年卒)から13年度会計報告を、同年の会

延喜会

会長 久下 平 (兵C1回)

平成14年7月26日(金)18時より瀧川記念学術会館(神戸大学文理農キャンパス内)に於いて、本年度延喜会の総会を開催した。総会に先立ち、神戸大学農学部生物機能化学科の村上講師より、「微生物のサイババル戦略、外来遺伝子を利用した生存力の強化」という演題で講演を聞いた。

その後総会に入り、議長から会則を説明した後、質疑応答を求め、その可否を議場に諮ったところ、満場異議なく原案通り可決された。尚、総会において会長に久下平、副会長に新藤充宏、岡本英輔、花本秀生の各氏がそれぞれ就任



することが承認された。総会終了後懇親会に入り、会員相互の現状、今後の活動方針等を話し合い、親交を深め、再開を約し21時頃散会した。



水島 広善(04産機)

更に、支部の弔慰内規と支部役員会開催時の交通費精算に関する提案があり、全員の承認を得、14年9月24日より適用されることとなった。

総会閉会后、別室の和室に席をかえ、小松氏(47年卒)の司会で懇親会が始まった。波多野氏(33年卒)の乾杯発声のあと、各所でなごやかな輪が出来、懐かしい思い出話や、夫々の近況、活躍ぶりに華が咲き、時のたつのも忘れ程で、予定時間が大巾におくれる程盛り上ったが、福井氏(38年卒)の一本で夕刻やっとお開きになった。

来年度の総会は、三重県で開催されることになり、更に多くの同窓生が集まり、共に語り、親睦の輪が一層広がることを願っている。

学友会だより

学友会担当理事 西川 欣一 (兵A1回)

学友会この1年

おられるので、それをご参照下さい。

◆学友会幹事の増員



野上學長(右から3人目)を囲んで

平成14年7月18日の学友会幹事会で、六條会選出幹事が従来2名から、西川欣一・北浦義久・王子善清の3名と1名増員が承認された。(平成16年6月30日までの任期3年)。

◆野上學長を囲む懇談会

平成14年7月

学友会は神戸大学各学部同窓会を一本化した全学同窓会で、神戸大学の公的行事について協議する会である。

◆学友会事業報告(抜粋)

平成13年

7月24日 神戸大学創立百周年記念事業打ち合せ会

9月12日 コウベ・ユー・ドットコム委員会

12月27日 学友会幹事会

平成14年

1月12日 コウベ・ユー・ドットコム委員会

3月7日 学友会幹事会

5月11日 神戸大学創立100周年記念行事開催

7月18日 学友会幹事会

7月27日 野上學長を囲む懇談会

右の報告中、神戸大学百周年記念行事については、王子善清理事が、コウベ・ユー・ドットコムについては高橋宣光氏が、別にくわしく書いて

KUCだより

KUC担当理事 能宗 康夫 (兵C2回)

神戸大学クラブとは、神戸大学の卒業生及び教職員で構成され、神戸大学関係者相互の交流と親睦を図るために20年前に作られたクラブです。

最初は、神戸新聞会館(三宮駅南側、現ダイエーの場所)内に産声をあげ、順調に推移してまいりましたが、震災で会館が倒壊したために、ハーバードにあるオーガスティングラザ17階に移転して活動を続けてきました。しかし、ここも店じまいとなったため、この10月より「本館 牡丹園」(元町駅南へ一分)と足場の良い所で再開する運びとなりました。

現在、各学部の同窓会から3名ずつ選出された運営委員27名により、大学及び同窓会の発展、会員の交流事業、さらに今年に至っては、(株)神戸学術事業会設立に関して運営・協議を行ってまいりました。

神戸大学クラブでのこの1年間の主な行事は、次のとおり実施しました。

1. 感謝フェア

平成13年11月19日～22日

2. 新春講演会

平成14年1月10日

「国政が直面する課題」講師：高市早苗(奈良県選出衆議院議員、昭和59年経営学部卒)

3. KUC講演と親睦会

平成14年6月27日

「国立大学の法人化と神戸大学」講師：野上智行(神戸大学学長)

4. 「ハワイアンとフラダンスの夕べ」平成14年9月5日

5. 再開記念フェア

平成14年11月12日～16日

また、同クラブの同好会として、ゴルフ・囲碁・旅行・園芸・釣りなどがあります。

今後とも、時々刻々の講演会や興味ある楽しい催しを行うことにしています。そのためにも、積極的に参加して色んなアイデアを提供していただけたら幸いです。このたびの会場・事務局の変更に伴う再開を機に、友人、ご家族などと一緒にどしどしご利用いただきたく思います。

また、発足当初からクラブの運営にご尽力いただいた初代委員長の福田晋三氏が病氣養生のために辞任され、後任として山本勝也氏(凌霄会、昭和32年経営学部卒)を選任したことをお知らせいたします。

なお、六條会のKUC委員は、能宗康夫、石賀暢一、中村直彦の各氏に世話を願っています。

「神戸大学クラブ事務局」本館 牡丹園3階、電話：078(334)1323

「入会・お問合わせ」事務局又はKUC委員までお尋ねください。

「会員の特典」①本館、牡丹園等指定店の料金が割引されます。

②神戸おくさま新聞の「結婚相談室」が特別料金で利用できます。

その他、講演会や各種行事へのお誘い等いろいろな特典があります。

神戸市における「人と自然との共生」の推進

代表理事 中村 直彦 (神Z1回)



集落ぐるみで保全する棚田

理の延長線上に、今話題となっているBSEの問題、産地の偽装事件、さらには輸入農産物の増加と農業残留問題等様々な食を取り巻く諸問題があるといっても過言ではない。

神戸市では、この食と農の再生のために、集落の機能を最大限に発揮させ、地域住民自らが地域の問題や課題を探り、将来のあり方を模索しては実行に移していく里づくりを進めている。

神戸市では、全国に先駆けて、平成8年に「人と自然との共生ゾーン条例」を制定するとともに、農業・農村地域を「人と自然との共生ゾーン」と位置付け、秩序ある土地利用や農業の活性化を中心とする里づくりを行い、農業の振興と快適で魅力ある農村地域を形成することとしている。

条例の第一の特徴は、地域住民において里づくり協議会を設置し、神戸市と市民(地域住民)が協同であらゆる課題に取組むシステムを構築していることである。また、第二の特徴は、土地利用調整や地域振興を盛込んだ里づくり計画を地域住民が策定し、神戸市はその計画を認定することにより計画の実現を図ることである。さらに、第三の特徴としては、地域住民が計画に沿って取組む事業に対し、神戸市は援助を行うことが出来ることにしている点である。

条例を制定するに至った経緯については、土地利用の規制が、農振法、農地法、都市計画法、森林法等によって実施されているが、必ずしも有効に対応できていなかったことや、自分たちの住んでいる町の町づくり、町おこしを自分たちで考える必要があったことである。即ち、この現行法令に条例を適切に組み合わせることで、環境保全と地域の活性化への誘導を自発的・自立的に進めることが本条例の役割といえる。

本年は、農地法が制定されて丁度50年を迎える。戦後の農政は国の主導で農地の転用などに歯止めをかけることもに、コメの生産調整を行ってきた反動として全国で多くの耕作放棄地や遊休地が増えてきている。そのため、国では、法内容の補完と地域の実情に沿った形で法の運用を図るため、本市の条例と里づくりを一つのモデルとし、農振法、

環境保全区域、集落居住区域と特定用途区域といった4つの農村用途区域に分けるとともに、農村景観保全形成地域の指定制度を設けて、それを神戸市が指定することにしており、住民参加、或るいは住民協定によって土地利用を計画的にコントロールするものである。

具体的には、これらの区域内で行う土地利用行為は、着

はじめに

平成11年に「食料・農業・農村基本法」が制定され、農業の役割において、食料の安定供給に加えて、国土や自然環境の保全、水源のかん養、良好な景観の形成、文化の伝承等による多面的機能の発揮が求められている。

また、平成14年には「食と農の再生プラン」が発表され、農業の構造改革の加速化、食の安全と安心の確保、都市と農村の共生・交流の3つの柱を掲げ、その実現を目指している。

しかし、過去の経緯を見るなら、農村側での掛け声は実行が伴わず、また都市と農村の考えを擦り合わせる機会も少なく、むしろ多数の人口を占め、経済と生活を優先する都市の論理で片付けられるきらいがあった。その都市の論

理の延長線上に、今話題となっているBSEの問題、産地の偽装事件、さらには輸入農産物の増加と農業残留問題等様々な食を取り巻く諸問題があるといっても過言ではない。

神戸市では、この食と農の再生のために、集落の機能を最大限に発揮させ、地域住民自らが地域の問題や課題を探り、将来のあり方を模索しては実行に移していく里づくりを進めている。

神戸市では、全国に先駆けて、平成8年に「人と自然との共生ゾーン条例」を制定するとともに、農業・農村地域を「人と自然との共生ゾーン」と位置付け、秩序ある土地利用や農業の活性化を中心とする里づくりを行い、農業の振興と快適で魅力ある農村地域を形成することとしている。

条例の第一の特徴は、地域住民において里づくり協議会を設置し、神戸市と市民(地域住民)が協同であらゆる課題に取組むシステムを構築していることである。また、第二の特徴は、土地利用調整や地域振興を盛込んだ里づくり計画を地域住民が策定し、神戸市はその計画を認定することにより計画の実現を図ることである。さらに、第三の特徴としては、地域住民が計画に沿って取組む事業に対し、神戸市は援助を行うことが出来ることにしている点である。

条例を制定するに至った経緯については、土地利用の規制が、農振法、農地法、都市計画法、森林法等によって実施されているが、必ずしも有効に対応できていなかったことや、自分たちの住んでいる町の町づくり、町おこしを自分たちで考える必要があったことである。即ち、この現行法令に条例を適切に組み合わせることで、環境保全と地域の活性化への誘導を自発的・自立的に進めることが本条例の役割といえる。

本年は、農地法が制定されて丁度50年を迎える。戦後の農政は国の主導で農地の転用などに歯止めをかけることもに、コメの生産調整を行ってきた反動として全国で多くの耕作放棄地や遊休地が増えてきている。そのため、国では、法内容の補完と地域の実情に沿った形で法の運用を図るため、本市の条例と里づくりを一つのモデルとし、農振法、

環境保全区域、集落居住区域と特定用途区域といった4つの農村用途区域に分けるとともに、農村景観保全形成地域の指定制度を設けて、それを神戸市が指定することにしており、住民参加、或るいは住民協定によって土地利用を計画的にコントロールするものである。

具体的には、これらの区域内で行う土地利用行為は、着

る。

表1 農村用途区域

区分	農業保全区域	環境保全区域	集落居住区域	特定用途区域
区域	農地、農地開発地(ぶどう園地、牧草地)	山林、ため池等	農家住宅の集団区域、分家住宅等の誘導区域	沿道サービス、公共施設や資材置き場等を誘導する区域
考え方	営農環境を積極的に保全・形成する区域	基本的に自然環境を保全する区域	生活環境を保全・育成する区域	地域の活性化や土地の有効利用の観点から、やむを得ず他の用途に供する区域
面積	8,995 ㎡	8,368 ㎡	219 ㎡	194 ㎡



農村景観による里づくりで植えられたコスモス街道

農産物として、その栽培と商品化、パスタの食用に使った竹を活用した提灯の製品化、掘割水路を活かした景観形成、花摘み園の設置などである。

手の30日前までにその内容を市長に届け出ることを義務付けている。この場合、条例の「農村用途区域ごとに定める土地利用基準」(誘導用、里づくり協議会の承認や里づくり計画への位置付けのある土地利用)に適合する土地利用を進めるとともに、適切な行為にあつては、中止等の勧告や命令を行い、さらには氏名等の公表を行うことになっている。

里づくりの推進

一方、市内農村地域には全体で164の集落が存在するが、そのうち150集落が里づくり協議会を設立し(91%)、64集落で里づくり計画を策定している(39%)。この里づくり計画の内容は、営農振興(集落営農、水稲栽培、転作、担い手、施設整備等)、環境整備(農道整備、景観形成等)、地域活性化事



里山の保全管理を行う農業者

業(拠点施設整備、貸し農園活動事業等)、土地利用によって構成している。これら計画の策定に当たっては、里づくり協議会である地域住民が主体となり行政、県普及所、農協、土地改良区が応援し、あらゆる角度から検討を加えている。また、アドバイザーを派遣する支援策をもとにしている。このアドバイザーには神戸大学を始め京都大学など大学の先生方をお願いしており、神戸大学からは畑武志先生、保田茂先生、津川兵衛先生、星野敏先生にお世話になっている。

さらに、この里づくり計画の実現に向けて、地域住民が、地域の特色を活かし誇りを持つて取り組む振興策を「ふる里一誇事業」として、神戸市は積極的に支援を行っている。

その代表的な例としては、淡河城址の櫓の建設を始め、特産品としてのそばの栽培と商品化、パスタの食用に使った竹を活用した提灯の製品化、掘割水路を活かした景観形成、花摘み園の設置などである。

六條会からのお知らせ

大学と六條会を核にネットワーク化を推進

代表理事 中村 直彦(神戸1回)

神戸大学は、創立百年の歴史を刻んだ証として、今年5月11日に「神戸大学創立百周年記念式典」を繰り広げた。この百年は、技術の飛躍的進歩と競争といった激動の時代であった。その後年は、高度経済成長が続く、豊か度度時代を謳歌してきたが、ここに来て、日本経済・企業は、国際化の波にあおられ、混迷の低成長時代の中で、経済の構造改革など急速な変化への対応を必要としている。

この厳しい日本社会に直面することは、考え方を換えれば、千載一遇の好機であるともいえる。英知を絞ることで、必ずこの課題を克服すること出来るものであると確信している。そのため、情報を共有し議論を深めていく中で、経営戦略や問題解決能力といった知恵と知識を引き出し、それを活かす必要がある。その場所となるのが、まさに同窓会ということになるのは間違いないし、そのような同窓会を構築していかねばならない。

一方、現在の社会構造への対応と国立大学の独立行政法人化をひかえ、大学の知的財産を地元経済の活性化や地域自治体で抱える問題に活用し、大学の社会への貢献を図

六條会においても、会報の発行、e-mail、FAXの活用や名簿の発行により同窓会員の交流を目指している。さらに、同窓会活動の活性化のため、企業・職種内で作る「職域支部」や同一地域で構成する「地域支部」といった六條会の支部の結成をも進めている。

また、このたび六條会の情報発信の充実と双方向の交流を目指して、六條会独自のホームページ(<http://home.kobe-u.com/ritusou/>)を立ち上げた。このホームページからは、六條会の目的、役員、代議員、事務局からのメッセージと行事予定、事業報告、事業計画のほか、六條会の発足から現在までの思いで多い歩みの紹介など、多様な情報を発信するとともに、学友会(全学の同窓会組織)や他の学部の同窓会へ、さらに大学のホームページへリンクされるようにした。

今後は、多くの同窓生の協働と参画によって、六條会の活動強化と農学部を発展を図り、同窓生の交流の絆を深めていきたいと考えている。会員各位におかれては、六條会の支部結成に努力していただきとともに、皆さん方からの意見・提案や近況報告を本部までお寄せください。

創立百周年を機に、同窓会が株式会社「神戸学術事業会」を立ち上げ、卒業生、学生、教官13万人を対象として交流を活性化するためにネットワーク化を進めることとしたのも連携強化の方法の一つである。同窓会がこのようなネットワーク事業の会社を設立したのは国立大学では初めてのことで



koube-u.comがめざすもの

発足半年の神戸学術事業会 代表取締役社長 高橋宣光 (昭和40年法学部卒)

kobe-u.com 誕生とその背景

人になる神戸大学が世界に通用する大学として発展していくためには、ひとり大学だけでなく卒業生、同窓生の全面的な支援が不可欠との認識から、2001年夏、野上智行学長ら同席の学友会幹事会で提案、了承されました。これを受けて、同年暮に学友会・大学首脳ら8名による「koube-u.com協議会(議長・難波昭学友会副会長)」が発足し、その実行部隊として、教官・卒業生のボランティア約30名による「koube-u.com委員会(委員長・北村新三現副学長)」が、ホームページの立ち上げや大学関連情報の発信を開始しました。

株式会社神戸学術事業会

kobe-u.com構想を推進するためには、インターネットその他の事業を運営し、法人格のない大学や学友会に代わって契約主体となる新たな法人が必要となり、神戸学術事業会が株式会社として誕生しました。

新会社の設立資金は、「全神戸大学人から広く、浅く募る」との主旨により、一株5万円で、全学部の卒業生・教官・関連法人から1千万円の出資を得て、2002年4月1日に発足しました。

神戸学術事業会では、この半年間、koube-u.com委員会と連携して、インターネット会員の獲得活動を展開してまいりましたが、加入件数は当初の計画目標を大きく下回るきびしい状況となっております。

これは、会社設立が予定より遅れたことなどにより、想定していた新卒業生や新入生

(各3千名)の取り込みができてきたためですが、何よりも魅力あるコンテンツが用意できなかったことが低迷の主たる要因となっております。

決め手は魅力あるコンテンツ

現在、「神戸大学らしいコンテンツとは何か」を最重要課題として試行錯誤を続けておりますが、当面、夏休み明けの10月から始まる就職戦線に備えて、学生が自主的に構築した就職サポート活動「Jobnavi(ジョブナビ)」を全面的に支援し、全同窓会のOB名簿検索システムにより企業との橋渡しを行ないます。また、各界の人脈ネットワークを活用したビジネスマッチングやインキュベーション事業など産学連携事業のほか、EC(電子取引)サイトも含め、大学の知的資産と人脈ネットワークを活用した様々な事業展開をめざしてまいります。

六條会の皆様におかれましても、ぜひkoube-u.comにご参加いただき、この事業を通じてわが母校神戸大学を強力にご支援いただきますようお願い申し上げます。



平成13年度 庶務報告

平成14年5月25日(土)に 代議員総会が参加者28名、委任状17名で開催されました。

役員

- 会長 北浦 義久(兵A6)
副会長 久下 平(兵C1)
副会長 能宗 康夫(兵C2)
副会長 杉本 金五(兵Z5)
副会長 西尾 司(兵Z16)
理事(代表理事) 中村 直彦(神Z1)
理事(副代表理事) 松本 幹夫(神A3)
理事(庶務) 水野 雅史(神C15)
理事(会計) 原山 洋(神Z18)
理事(会報) 相野 公孝(神P12)
理事(会報/名簿) 若田 均(神C14)
理事(会報) 岡野 光世(神A22)
理事(名簿) 松本 幹夫(神A3)
理事(名簿) 菅原 通直(神C4)
理事(学友会) 西川 欣一(兵A1)
理事(学友会) 王子 善清(兵C12)
理事(KUC) 能宗 康夫(兵C2)
理事(KUC) 石賀 暢一(神C1)
理事(KUC) ...

- 中村 直彦(神Z1)
監事 中田 昌伸(兵C10)
監事 外山 真理(神C8)
顧問 東 順三(兵C1)
顧問 田中 平義(兵C1)
顧問 西川 欣一(兵A1)
顧問 新家 龍(兵C5)
六條会代議員
松浦 良彦(兵A1)
久保 一兵(兵C2)
藤中 勤(兵Z4)
中澤 啓一(兵A7)
津田 安啓(兵C8)
小田垣博三(兵A9)
酒井 修(兵A9)
櫻井誠次郎(兵Z10)
坂井 永利(兵A12)
永吉 照人(兵A13)
池田 吉一(兵A13)
松井 功(兵T16)
塩田悠賀理(兵P17)
得丸 哲士(神Z2)
武 正興(神C3)
天野 孝司(神Z7)
矢代 学(神P10)
東 哲司(神A17)
門岡 織江(神P17)
向井 信之(神T18)
谷河 賞彦(神P21)
阿部 永子(神Z21)
宇野 雄一(博後H8)
鈴木 武志(神C23)
丸橋 康弘(神P23)
竹中 慎治(神C24)
田中 学(神T27)
阪上 昭宏(鶴3)

平成13年度の一般事業として名簿発行、会費納入促進、会報発行、各支部活動・学友会・KUC援助、農学部および農場活動援助、六甲祭援助、20kmマラソン援助、自然科学系図書館援助、退官教官記念

品贈呈、卒業証書筒及び手提袋贈呈、卒業祝賀会援助、慶弔関連、功績者・功労者の表彰などを行いました。また、学術振興事業関連では、会員の海外渡航援助として、4名(渡航先:アメリカ)に、農学部の学術講演会援助として、応用動物・生物環境制御・生物機能化学科主催の学術講演7件に対して、援助を行いました。

平成14年度の活動についても、例年同様、一般事業活動を維持していくことが代議員総会で承認されました。また、同時に学術振興を促進するために神戸大学農学部六條会基金規定を新たに策定いたしました。これら決定事項に従い、現在活動を開始しているところであり、以下の皆様にご逝去なされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

慶弔記録

- 田場 典治(旧教官)
三浦 直子(神A9回)
三宅 謙二(兵C14回)
津国 節男(兵A2回)
石田 陽博(旧教官)
相蘭 泰生(生物機能分子化学)
加藤征四郎(応用動物遺伝学)
困野 源一(生物機能分子化学)
中田 昌伸(機能制御化学)

着任された教員

- 草苺 仁(食料環境経済学)
濱西 洋(生物制御学)
大野 清春(生物環境学)
星野 敏(地域環境科学)
前藤 薫(生物制御学)

六條会 平成13年度一般会計決算報告書

Table with 5 columns: 収入, 支出, 収入の部, 支出の部. Total revenue: 8,592,380円. Total expenses: 8,592,380円.

六條会 平成13年度学術振興基金決算報告書

Table with 5 columns: 収入, 支出, 収入の部, 支出の部. Total revenue: 35,637,857円. Total expenses: 35,637,857円.

六條会 平成14年度一般会計予算

Table with 5 columns: 収入の部, 支出の部. Total revenue: 8,720,062円. Total expenses: 8,720,062円.

平成14年度 六條会学術振興事業予算案

Table with 5 columns: 収入の部, 支出の部. Total revenue: 35,698,568円. Total expenses: 35,698,568円.

会員の皆様からの本会への御連絡を主としてFAXで受付けております。また、e-mailでの受付も行っております。住所や連絡先の変更、また本会に対する御要望、御意見など御待ちしております。なお、御連絡の際には、所属学科と卒業年次を併せてお伝え頂くようお願い申し上げます。

FAX 078-881-2752
e-mail rikusou@ans.kobe-u.ac.jp
ホームページ http://home.kobe-u.com/rikusou/

編集後記

六條会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。本年も恒例の会報をお手元にお届けすることができました。昨年来の懸案でありました内容と構成の刷新は、十分に達成できまじりませんが、学長から原稿を賜り掲載できたことをはじめ、新たに研究室紹介をシリーズ(のつもりです)としてスタートし、「同窓生は今」では、各界でご活躍の同窓生から記事を頂戴して内容を充実させました。少しづつ生まれ変わりつつある農学部と同窓生の活躍をお伝えできておれば幸いです。なお、表紙の写真は、農学部から幾つかの研究室が移動した大学院自然科学研究科総合棟1号館と2号館ですが、昨年ご紹介いたしました。本年7月に最終的な移転を完了しました。来年度以降も紙面の充実を図りたいと思っております。農学関連分野に限らず、エッセイ、コラム記事、雑文などの原稿を同窓会事務局へFAXあるいはe-mailでお送りください。また、いろいろお気づきの点がございますら、忌憚のないご意見をお待ちしております。新たに年を迎えようとしておりますが、皆様方の益々のご健勝とご活躍を、そして農学部の発展を祈念いたします。